

# 中国四国地域農業をめぐる事情

---

## 取組事例集

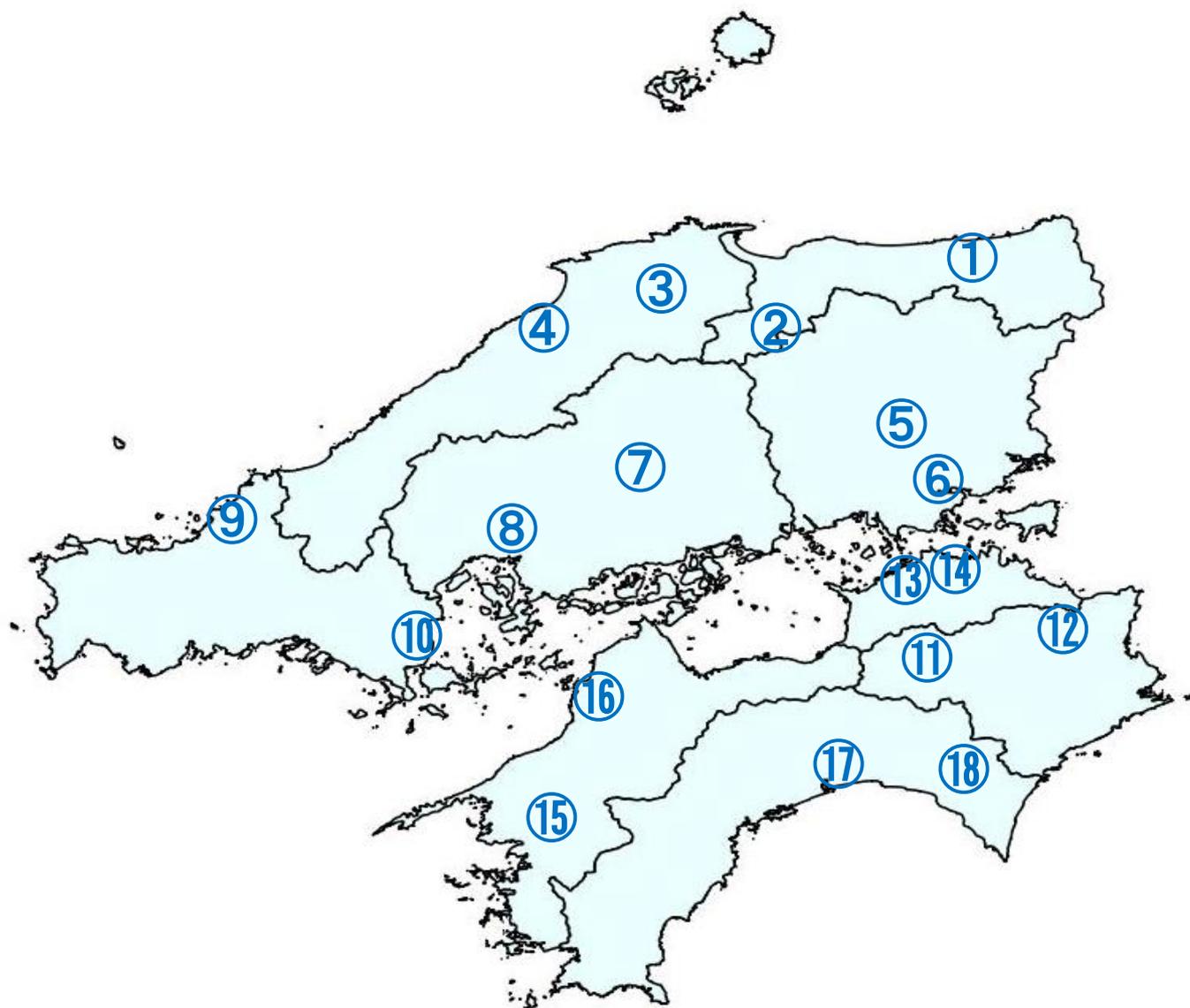
令和6年12月

農林水産省  
中国四国農政局

# 掲載事例一覧

|   |  |  |
|---|--|--|
| ① | <b>鹿野町河内果樹の里山協議会</b><br>地域内外が連携した果樹の里山によるむらづくり         | 地域活性化                                  |
| ② | <b>日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊</b><br>地域住民と連携して農作物を守る              | 鳥獣害対策・ジビエ                              |
| ③ | <b>ライスフィールド（有）</b><br>農地を守り活かし、田園風景を守るために              | 農地集積 生産基盤強化 担い手<br>生産性向上 土地利用型作物 地域活性化 |
| ④ | <b>大田商工会議所</b><br>隠れた資源「大田の大あなご」のブランド化                 | その他                                    |
| ⑤ | <b>JA岡山加茂川ぶどう部会</b><br>ぶどうの「ハイブリッド生産団地」による産地振興         | 農地集積 生産基盤強化<br>担い手 園芸                  |
| ⑥ | <b>株式会社おおもり農園</b><br>農福連携による労働力確保と障害者の育成指導             | 担い手 園芸<br>農福連携                         |
| ⑦ | <b>広島県酪農業協同組合</b><br>安価で高品質な飼料の安定供給を目指して               | 生産基盤強化 土地利用型作物<br>畜産                   |
| ⑧ | <b>広島県立広島特別支援学校</b><br>地域との連携を通じた協動的な学びの充実を図る          | 園芸 農福連携                                |
| ⑨ | <b>農事組合法人福の里</b><br>皆が主役 福来る里で美田をつなぎ、にぎわいの創出           | 土地利用型作物 6次産業化<br>農福連携 地域活性化            |
| ⑩ | <b>株式会社神東ファーム</b><br>マイヤーレモンで地域を元気に！                   | 担い手 園芸<br>6次産業化 地域活性化                  |
| ⑪ | <b>一般社団法人そらの郷</b><br>「住んでよし・訪れてよし」の観光地域づくり             | 地域活性化 その他                              |
| ⑫ | <b>有限会社NOUDA</b><br>なると金時を食べたブランド豚で6次産業化               | 畜産 加工・流通<br>6次産業化 その他                  |
| ⑬ | <b>鎌田醤油株式会社</b><br>世界中の食卓に笑顔をお届けする                     | 輸出・認証                                  |
| ⑭ | <b>株式会社カワイ</b><br>香川県ブランド「オリーブ牛」の輸出拡大                  | 輸出・認証                                  |
| ⑮ | <b>百姓百品グループ</b><br>地域課題を農業で解決！農も、福祉も、地域一丸              | 農地集積 加工・流通<br>農福連携 地域活性化               |
| ⑯ | <b>愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班</b><br>農福連携の活動に高校生が奮闘中         | 農福連携 地域活性化                             |
| ⑰ | <b>一般社団法人エンジェルガーデン南国</b><br>有機グアバでノウフク・産官学連携・SDGs・6次産業 | 担い手 園芸<br>6次産業化 地域活性化                  |
| ⑱ | <b>馬路村農業協同組合</b><br>村をブランド化し魅力を全国に発信した馬路村農協            | 担い手 6次産業化<br>地域活性化 その他                 |

## ■ 位置図



- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| ①鹿野町河内果樹の里山協議会   | ⑩株式会社神東ファーム           |
| ②日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊 | ⑪一般社団法人そらの郷           |
| ③ライスフィールド（有）     | ⑫有限会社NOUDA            |
| ④大田商工会議所         | ⑬鎌田醤油株式会社             |
| ⑤JA岡山加茂川ぶどう部会    | ⑭株式会社カワイ              |
| ⑥株式会社おおもり農園      | ⑮百姓百品グループ             |
| ⑦広島県酪農業協同組合      | ⑯愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班 |
| ⑧広島県立広島特別支援学校    | ⑰一般社団法人エンジェルガーデン南国    |
| ⑨農事組合法人福の里       | ⑱馬路村農業協同組合            |

※ この地図は、必ずしも我が国の領土を包括的に示すものではありません。

## 地域内外が連携した果樹の里山によるむらづくり

鹿野町河内果樹の里山協議会（鳥取市鹿野町）

会長 佐々木 千代子

○地域内外の人々により耕作放棄地を果樹園に再生（4.5ha）

○学生等による企画運営と活動・商品の情報発信

URL: <https://kajiyuno-satoyama.com>

カテゴリ

地域活性化

## ○ 取組内容

地域住民有志と鹿野町総合支所、NPO法人などにより「鹿野町河内果樹の里山協議会」を設立し、地域内外の人々による耕作放棄地の再生と観光・体験農園による地域の活性化を目指す。

## ○ 取り組みに至った経緯

中山間地域にある鹿野町河内地区では、過疎化・高齢化により耕作放棄地が増加するだけでなく、地域全体の疲弊も懸念されるようになった。地域には「守ってきた農地を雑草だらけにはしたくない」という強い気持ちがあり、耕作放棄地を果樹の里山に転換することで農地を守り続けることとした。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

耕作放棄地の再生では、除草、苗の定植、獣害対策などの管理業務が必要であったことから、地域の農家だけでなく、学生を含めた地域内外の多様な人たちが集まり、地道な活動を行った。また、大学生による「河内里山ツアー」、「果樹の里山まつり」の企画運営や情報発信、地域の女性を中心に収穫した果実の加工品開発、鹿野町出身のデザイナーによる果樹の里山の活動や商品のPRなど地域を活性化する取組も行った。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

耕作放棄地の再生は2015年度より始まり、2023年までに4.5haの農地でイチジク、栗、柿など12品目900本の苗や野菜を植え付けた。また、果実の収穫によりジャム、ドライフルーツの商品開発が始まり、県内外の販売ルートを確認し販路拡大に取り組むとともに、「果樹の里山まつり」を開催し、地域の新たな賑わいイベントとして関係人口の創出にもつながっている。（受賞歴）

令和5年度農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

今後も果樹を育て、新たな加工品開発や商品PRを検討し販売促進を進めるなど、むらづくりをゆるやかに発展・継続させていく。



果樹の里山ビジョン作り

## 代表者からのコメント

地域の人と楽しみながら可能な限り継続したいと思います



佐々木 千代子氏

## 地域住民と連携して農作物を守る

日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊（日野郡日南町、日野町、江府町）

チーフ 高野 伸也

○「捕獲」ではなく「農作物を守る」対策で住民意識を変える

○地域ぐるみの侵入防止対策による被害金額・面積の減少

URL: [https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/hyousyou\\_zirei/hyousyou/r5\\_05\\_hino.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/hyousyou_zirei/hyousyou/r5_05_hino.pdf)



カテゴリ

鳥獣害対策・シビエ

### ○ 取組内容

日野郡3町が合同で設立した「日野郡鳥獣被害対策協議会」の実施隊では、集落講習会の開催、地域に適した侵入防止柵の普及、集落ぐるみの対策体制の構築を推進している。

### ○ 取り組みに至った経緯

2010年7月に行政サービスの維持・向上や効率的な行政運営の促進と共通する課題の解決に取り組むことを目的に、県と日野郡3町で「鳥取県日野地区連携・共同協議会」を設置し、共同で鳥獣被害対策に取り組むことになった。

2013年12月に日野郡3町で「日野郡鳥獣被害対策協議会」を設立、実施隊を設置して2014年4月から活動を始め、「捕獲」ではなく、住民に焦点を合わせ「農作物を守る」ことを目的に活動している。

### ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

実施隊が活動を始めた時、地域住民からは捕獲要望が多く、住民の多くが「被害を受ける」ことが問題ではなく、「野生鳥獣がいること」が問題だと考えていた。しかし、「農作物被害をなくすための対策とは何か」をしっかりと考え、「捕獲」に頼らず、地域住民が「地域ぐるみで被害を減少」できる体制の構築や対策の講習、普及活動を行った。

### ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

地域ぐるみの対策により住民の意識が「捕獲」から「どうしたら被害をなくせるか」に変容し、適切に対策を行えば効果があることが理解され、侵入防止柵の年間設置延長が、取組当初から4倍以上増加し被害金額・被害面積の減少につながった。

(受賞歴)

鳥獣対策優良活動表彰 農村振興局長賞 被害防止部門(団体)(R5)

### ○ 今後の展望(将来に向けて)

その時々に応じた課題に向き合い、獣害対策を頑張る地域の皆さんをこれからも支援していきたい。



地域住民と実施隊による侵入防止柵の設置

### チーフからのコメント

少ない人数でも引き続き、皆さんのために頑張ります！



高野 伸也氏

## 農地を守り活かし、田園風景を守るために

ライスフィールド株式会社（松江市下佐陀町）  
代表取締役 吉岡 雅裕



カテゴリ

農地集積

生産基盤強化

担い手

生産性向上

土地利用型作物

地域活性化

## ○ 取組内容

松江市下佐陀地区において、主食用米をはじめ加工用米、WCS用稲、そば等を栽培するほか、無人ヘリ防除等の作業受託を実施。耕畜連携にも力を入れ、WCSのほか稲わらや籾殻を松江市内外の畜産農家に供給している。令和6年度の作付面積は約245haで、代表取締役のほか17名の社員が従事している。規模拡大に伴い、営農管理システムや先進的な技術導入を積極的に行うとともに、複数品目・品種によって作期分散と農地・機械利用効率を高め、作業の省力化と生産コスト低減を図っている。また、土木会社を設立し、冬期の仕事を確保することにより、通年雇用を可能としている。

## ○ 取り組みに至った経緯

「生まれ育った地域の農地を守り活かし、田園風景を守っていきたい」との思いから、平成14年に2戸の共同経営からなる「農業生産法人ライスフィールド株式会社」を設立し、42.6haの作付、400haの無人ヘリ防除の作業受託を開始。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

従来は社員が作業指示待ちの状態であったが、平成30年から作業意識・環境改善のため、社員だけでミーティングを実施することにより、自ら考えて行動する環境作りを行った。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・全国優良経営体表彰 法人部門(H22)
- ・第52回日本農業賞「個別経営の部」大賞(R4)
- ・令和5年度農林水産祭農産・蚕糸部門 内閣総理大臣賞

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

社員が安心して働くことのできる職場とすることを理念とし、後継者育成や施設整備を充実させ、地域農業が継続できる強い体制作りを図っていく。また、社員が全ての仕事を同レベルで行えるようになることを目標としている。



稲わらの回収作業風景

## 経営者からのコメント

後継者育成にも力を入れ、地域から預かっている農地を守っていきます。



吉岡 雅裕 氏

## 隠れた資源「大田の大あなご」のブランド化

大田商工会議所（大田市大田町）  
事務局長 沖 和真



カテゴリー

その他

## ○ 取組内容

大田市産のアナゴのブランド化を図り観光需要を喚起するため、地域名を入れた「大田の大あなご」と名付け、脂質やうまみ成分等の美味しさをデジタル検証し「見える化」を図るとともに、行政・飲食店・食品加工事業者・観光DMOなどで協議会を形成し、料理コンテストの開催やアナゴ料理・加工品の開発、情報発信などに取り組んだ。

## ○ 取り組みに至った経緯

大田市産のアナゴは、他産地と比較して大型である。平成29年から3年連続水揚げ1位である島根県の中でも大田市の漁獲高は約6割を占めるが、市内での流通は1%も満たない状況であった。人口減少が課題となっている当市の活性化のため、平成30年度から本格的に「大田の大あなご」のブランド化を推進した。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

ブランド化推進には通常多くの予算が必要となるが、事業の企画のほかロゴマークやパンフレット、幟、標語等のデザイン作成を全て職員が担うことにより、行政からの少額助成を得ながらの「ゼロ予算」の取組が可能となった。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和5年3月時点で、大田市産のアナゴの市内流通量は15%にまで上昇した。また、大田市で開催された将棋の王将戦において、令和5・6年の2年連続で藤井王将が「大田の大あなご」を食し、全国へのPR効果があった。加えて、行政機関や学校等での標語作成等の活用も相まって、需要が着実に増加し、漁業者の所得向上に大きく貢献している。

・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」グランプリ（R5）

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

漁師の水揚げ等の見学などのメニューを整備するとともに、「大田の大あなご」の地域商標登録を目指し、大あなごを目的とする観光客増加に繋げる。



大あなごの料理例（大あなご丼）

## 事務局長からのコメント

地域資源を再認識することで付加価値を高めることができました。また、食材は多様な業種に影響を与えられることを実感しています。



沖 和真氏

## ぶどうの「ハイブリッド生産団地」による産地振興

カテゴリー

農地集積

生産基盤強化

担い手

園芸

JA岡山加茂川ぶどう部会（加賀郡吉備中央町）

部会長 代表 瀬尾和弘

○ピオーネ、シャインマスカットの栽培

○新規就農希望者への支援（ほ場のリース、研修場を完備）



## ハイブリッド生産団地

従来の施設整備に加え、担い手の確保・育成、新技術の研究開発等の複数の目的をもつ産地。

## ○ 取組内容

ぶどう産地の規模拡大に向け、町・JA・ぶどう部会・農業公社などの関係機関が連携し牧場跡地を利用した、ぶどうのハイブリッド生産団地を整備するとともに、新規就農者を積極的に受け入れている。

## ○ 取り組みに至った経緯

平成22年町営牧場の休止決定により跡地利用が課題となり、関係機関による検討の結果、平成24年3月に町がぶどう産地拡大のために活用することを決定。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ①産地拡大の優良農地対策として、水源確保、跡地の原型を生かした区画配置、パイプラインなどのかんがい施設を整備。
- ②多様な担い手確保に向け、団地内に研修ほ場を設置し、研修後に、新規就農者本人に貸付けるなど初期投資を軽減する取組等を実施。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

平成23年～令和5年の間で部会の農家数が26名から44名に、栽培面積も6.4haから16.5haに増加。このうち、新規就農者が半数以上を占め将来の生産団地を支える担い手が確保できた。現在、ぶどう部会としての販売額は2億8千万円、生産量が153トン。ぶどう生産団地の新規就農者が定住し、地域住民との交流を通しての地域活性化を実現。

- ・岡山県農林漁業近代化表彰（R2）
- ・第53回日本農業賞「集団組織の部」大賞（R5）
- ・第63回農林水産祭「日本農林漁業振興会会長賞」（R6）

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

アジア地域への輸出に向けて、マーケットインの視点で生産・供給体制を図り、儲かる農業を推進。

ぶどうをはじめとした地域の特産品をPRし、今後も地域内外から就農者を迎え入れ、関係人口の増加による地域活性化を目指す。



## 部会長からのコメント



岡山に1ターンのして10年。自分が受け入れてもらったように、

新規就農者を手厚く支え、産地を盛り上げて行きたい。

瀬尾 和弘氏

## 農福連携による労働力確保と障害者の育成指導

株式会社おもり農園（岡山市中区兼基）

代表取締役 大森 一弘

○いちごの生産・販売（自ら障害福祉サービス事業所の設立などにより安定した労働力を確保し、経営安定と規模拡大を実現）

○ノウフクJAS取得（令和3年度）

○URL : <https://omorifarm.jp/>

HPはこちら

カテゴリー

担い手

園芸

農福連携



## ○ 取組内容

平成14年にいちご栽培10aからスタートし、年間を通して作業時間が長いいちご栽培の労働力確保のため障害者を受入れ。

平成23年にはNPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。

現在、杜の家ファームの障害者20名のうち6名～10名が施設外就労でいちごを栽培。

## ○ 取り組みに至った経緯

夫婦2人で就農後、労働力の確保が課題となっていた中で中国四国農政局主催のシンポジウム「クローズアップ農の福祉力」への参加を契機に、障害者の受入れを決意。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

障害者が視覚的に理解して効果的に作業が行えるよう、

- ①収穫後の選別から出荷までの作業工程を階層分解し、具体的な作業手順をわかりやすく写真で示した「マニュアル」を作成。
- ②作業ミスの防止のため、作業場に「音声選果機」を導入などを実施。

栽培技術を習得した障害者が、いちごの手入れ・収穫作業等を担い、新しく雇用したパートに対して作業指示を行うことができるよう育成・指導。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・いちご栽培やその他の施設外就労との組み合わせにより、利用者の平均賃金（月額）は59,522円（H21）から90,741円（R4）に上昇。
- ・ノウフクアワード2023 優秀賞

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

農福連携の取組効果をPRするとともに、栽培技術を習得した障害者が将来の地域農業の担い手となれるよう育成・指導。併せて地域の特産品のぶどうや露地野菜の栽培などを通じて耕作放棄地の解消に取り組む。



ノウフクJASマークを記載したパッケージ

## 経営者からのコメント

農業と福祉を連携させて安定した農業経営を実現させたい。



大森 一弘氏

## 安価で高品質な飼料の安定供給を目指して

広島県酪農業協同組合（三次市東酒屋町）

組合長 温泉川 寛明

○購買事業・みわTMRセンター、乳製品・生乳販売事業 等

URL: <http://hiroraku.or.jp/>

カテゴリ

生産基盤強化

土地利用型作物

畜産



稲WCS



ラッピング中のTMR



出荷を待つTMR

## ○ 取組内容

広島県酪農業協同組合「みわTMRセンター」は、発酵タイプの完全混合飼料（TMR）に自給飼料（極短穂型飼料用稲WCS）を利用することとして、平成26年に「強い農業づくり交付金」を利用し、新たに施設整備し製造を開始した。耕種農家、酪農家と資源循環型の耕畜連携システムに取り組み、TMRの原料のうち輸入粗飼料の一部を極短穂型飼料用稲WCSに置き換えることで、低廉かつ栄養価が充実し、また飼料自給率の向上を図るとともに地域の持続的な農業経営を支えている。

## ○ 取り組みに至った経緯

作業時間の省力化と飼料自給率の向上に取り組み、生乳出荷組合員数の減少速度が緩和又は歯止めがかかるよう「安くて良質なTMR飼料の組合員への供給」と「1円でも安いTMR飼料の供給」を掲げ、職員による供給指導の充実を図りより多くの組合員に利用戴きたいとして取り組んだ。耕種農家としても、耕畜連携による経営の安定と、これを軸に地域農業の活性化が見込める。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

輸入粗飼料から極短穂型飼料用稲WCSに置き換えた後に、一部の利用者においては嗜好性のムラや、夏期の乳成分が基準を下回る問題が生じたが、広島県立総合技術研究所畜産技術センターを始めとする関係機関と連携し、給餌試験や血液プロファイル検査等の結果を基に配合割合や技術的な改善を加え、平成30年度より嗜好性のさらなる向上とともに、夏場の乳脂肪率の低下防止に成功した。

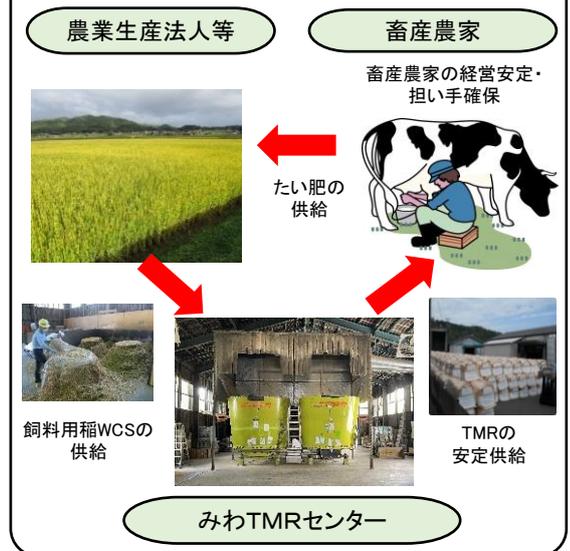
## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第10回全国自給飼料生産コンクール 農林水産大臣賞
- ・令和6年度農林水産祭畜産部門 日本農林漁業振興会会長賞

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

TMRセンターの拡充整備への検討を進めるとともに、極短穂型飼料用稲WCSの配合割合を高め、さらに安価なTMR飼料の供給を目指します。

## 資源循環型の耕畜連携システム



## 広島県酪みわTMRセンター長からのコメント

令和5年産は飼料用稲の田植え時期に降水量が少なく、作付けにも影響を及ぼしました。令和6年産においても暑さの影響から減収状況にあり、これらの改善に向けては畜産技術センターと取り組んで参ります。今後も耕畜連携を軸に極短穂型飼料用稲WCSを活用し高品質な飼料供給に努めて参ります。



松尾 雅也氏

## 地域との連携を通じた協動的な学びの充実を図る

広島県立広島特別支援学校（広島市安佐北区倉掛2丁目）

校長 大元 みどり

○農福連携、地域社会との連携、連携の輪の広がり

URL: <https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/> ひろとくから広がる緑の若葉

カテゴリー

園芸

農福連携



## ○ 取組内容

- ① 全ての年次の生徒が、自信や生きがいをもち、自立と社会参加を目指せることを目的にして、知的障害部門高等部の作業学習【農業】の授業では、学校内の圃場で農作業を実施。
- ② 土ふるいや堆肥作りなどを行うため、攪拌機のある屋根付き小屋を整備し、作業棟には車いすの児童生徒が室内で安全に作業できる水耕栽培の棚を設置している。
- ③ 地域の公民館での野菜の販売や、近隣住民を対象に訪問販売（受注型）を実施。
- ④ 県内の農業を専門とする高等学校と連携し、土壌調査を依頼するなど、生徒同士が学び合う場を設けているほか、近隣小学校の児童に農作業を教えている。
- ⑤ ノウフク・アワード2023の表彰式をきっかけに県外の農業高等学校と交流が始まり、支援学校で栽培する野菜を使用した加工食品を共同開発。



野菜販売の様子

## ○ 取組に至った経緯

自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労につなげてほしいという思いから農福連携の取組を開始。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

生徒の卒業とともに在校生に栽培技術が継承されなかったため、一緒に農作業を行いながら上級生が下級生に直接アドバイスを行うことで栽培技術が継承されるようになった。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

ノウフク・アワード2023準グランプリ「人を耕す」部門

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

様々な人、場所、方法で農福連携を広め、深めていく。

- ・収穫体験や農作業を通して、地域に対して障害のある児童生徒や特別支援学校の取組について理解を図るとともに、農業に触れるきっかけを創出する。
- ・農福連携を通して人とのつながりを増やすことで、生徒の雇用につなげる。

## 大元校長からのコメント

本校では、全校児童生徒が主体的に取り組む地域清掃「倉掛の街も学校もきれいにしようプロジェクト」通称「街きれプロジェクト」や「農福連携」を地域の皆様とともに推進しています。



## 皆が主役 福来る里で美田をつなぎ、にぎわいの創出

農事組合法人福の里（阿武郡阿武町）

代表理事組合長 植田 寿美

○主な栽培：水稲、大豆、野菜及び薬用作物



カテゴリー

土地利用型作物

6次産業化

## ○ 取組内容

標高400mの高原地域で、水稲や大豆の生産を主体に野菜や薬用作物などの複合経営に取り組む。JGAP認証を受け、生産物だけでなく、働く人への安全・安心にも配慮した取組を目指す。

主食用米の「コシヒカリ」は、化学肥料・農薬を5割低減した「エコやまぐち農産物認証（エコ50）」を取得。また、GI萩※に原料米を供給する萩酒米みがき協同組合に出資加入し、山田錦の栽培に取り組む。

女性の視点で地域を盛り上げる目的で、農産物加工所・直売所を整備し、餅・おこわ・柏餅・菓子などの農産物加工品を開発・販売。

社会福祉法人の地区内進出を契機に、町、社会福祉法人、当法人の三者で「阿武町農福連携協議会」を設立し、農福連携に取り組む。

※2021年3月30日、国税庁が酒類の地理的表示として指定。

## ○ 取り組みに至った経緯

老朽化した「ため池」の漏水修復による断水で5集落で水稲作付が不可能となり、転作作物として大豆栽培に取り組むこととし、大型機械の導入など共同作業で行ったことを契機に平成15年に水稲と大豆を中心に生産を行う法人を設立。

組合員の減少や高齢化による担い手不足が深刻化する中、同法人が地域（むら）づくりの中核としての役割を担い、新規就業者の雇用や農福連携、女性活躍の場の提供、イベントの開催による交流促進など、地域に賑わいを創出する取組を始める。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

法人化に当たっては、地域の合意形成に苦労したが、粘り強く交渉を重ね、設立時に5集落・経営面積75ha、令和5年には7集落・経営面積115haにまで拡大し、環境に配慮した農業を実践。

担い手となる新規就業者を雇用するために、年間の農作業確保として、冬季作業に薬用作物の栽培を導入。また、農福連携により働く場の提供と労働力の確保でWIN-WINの関係を築く。

地域を盛り上げるために、女性部を組織化し、加工所や直売所建設につなげ、賑わい創出の一翼を担う。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和5年度農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

現在、若い社員が3人いる。彼らが、今後の法人運営やこの地域をどうやって守っていくか、考えてもらえることを期待している。



社会福祉法人とはげかけ作業

農福連携

地域活性化



女性部が作る加工食品

## 組合長からのコメント

福田地区を未来ある地域にしたい。



植田 寿美 氏

## マイヤーレモンで地域を元気に！

株式会社神東ファーム（岩国市由宇町）

代表取締役 瀧山 進

○マイヤーレモンを栽培し、青果や果汁等を販売。地域の学校給食にも提供。

URL: <https://shinto-farm.com/>

就労環境整備



地域おこし



安心・安全なもの作り

## ○ 取組内容

・「思い描くのは会社の未来ではなく地域の未来」をコンセプトに、西日本では珍しいマイヤーレモン※園を地域活性の中心に据え、耕作放棄地の再生や新規就労機会創出を図るほか、地域内外の人と人のつながりを生むための観光農園の運営やイベント活動による地域づくりに取り組む。

・有機肥料による土づくりと農薬を極限まで抑えたマイヤーレモンは、安心して皮ごと料理や飲み物に使える食材として高評価を得る。また、地元事業者と協力して6次産業化に取組み、売上げの一部を「赤い羽根共同募金」に寄付するなど地域の福祉活動にも貢献。

・市内の小中学校・幼稚園の給食の食材として採用され、子供たちにマイヤーレモンが地元の自慢の食材として郷土愛をもってもらえるよう食育に力を入れる。

※オレンジとレモンとの交雑種

## ○ 取り組みに至った経緯

高齢化による人口減少や耕作放棄地の増加など地域衰退の危機感が増す中、かつての美しい景観と活気を取り戻そうと、地域おこし協力隊の協力を得て8名のメンバーが、収益性の高いマイヤーレモンに注目し栽培に取り組むことを決意。

令和元年、地域振興協議会内に生産部会「レモンの会」を設置し、マイヤーレモンの栽培を開始。令和2年に生産を本格化させようと同部会を法人化し「株式会社神東ファーム」を設立。翌年4月に地元県立農業大学校の新卒を1名採用。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

・栽培のノウハウがなく、栽培方法を習得するために三重県で研修。  
・販路拡大に向けて、ホテルでの試食会やフォトコンテストの実施、料理研究家とのコラボによるマイヤーレモンレシピの公開などで知名度アップ。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第11回「ディスカバー農山漁村の宝」(R6)
- ・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」中国四国農政局選定 (R5)

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

マイヤーレモンの産地化を目指し、販売先や生産農家を拡大して地域活性化をさらに高めていきたい。



上写真：6次産業化の商品  
下写真：学校給食（レモントーストとアジのマイヤーレモン風味）

## 代表取締役からのコメント

単に売上を伸ばすだけでなく、地域を元気にしたい！そんな思いで頑張っています。



瀧山 進氏

カテゴリ

担い手

園芸

6次産業化

地域活性化

## 「住んでよし・訪れてよし」の観光地域づくり

一般社団法人そらの郷（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）

理事長 松浦 敬治

○教育・研修旅行の体験受入、農家民泊、体験観光の開発

○観光プロモーション、観光による地域づくり

URL: <https://nishi-awa.jp/soranosato/>

## ○ 取組内容

世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」を背景に、持続可能な観光地域づくりを推進し、地域再生や活性化に取り組む。

- ・地元農家（受入家庭）との交流ができる各種体験コンテンツの開発。
- ・都市部の中高生を対象とした体験型教育旅行の受入れ。
- ・農山村での体験を組み込んだインバウンドツアーの開発、受入れ。

## ○ 取り組みに至った経緯

体験型教育旅行の受入組織として、都市と農村の交流による地域活性化に取り組んだことがきっかけ。

にし阿波地域は、平成20年「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」、平成28年「SAVOR JAPAN」、平成30年「世界農業遺産」の認定を受け、独特の農法、景観、伝統、食文化を体感できる集落が点在している。この伝統ある農業集落の活性化を目的に、行政、観光事業者、農業者、地域住民等と連携し、観光地域づくりを担うこととなった。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

体験型教育旅行は、子どもたちが食や文化、農山村の暮らしを宿泊体験することで、ふだん味わえない「素敵な田舎」を体感できるものであり、受入家庭の確保と受入体制の強化が必要である。

- ・定期的な説明会や研修会（衛生、防災）の開催や、行政と連携し新規受入家庭の開拓等を行っている。
- ・子どものアレルギー等、配慮が必要な事項は、事前に把握した上で対応している。また、指差し会話カードの配布やガイド研修会を開催し、インバウンドに対応。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・平成30年度「地域づくり表彰」全国地域づくり推進協議会会長賞
- ・オーライ!ニッポン大賞「内閣総理大臣賞」(R2)
- ・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」中国四国農政局選定 (R5)

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

国内教育旅行の閑散期対策として、海外からの「訪日教育旅行」の受入れを拡大するため、海外向けのプロモーションに取り組む。

伝統農法の観光コンテンツ化を更に推進し、農業者の所得向上や、訪れた人がにし阿波に愛着を持てる観光地域づくりに取り組む。



野菜の収穫体験（農林漁家民宿）



傾斜地での伝統的な農作業（ツチアゲ体験）

## 理事長からのコメント

にし阿波地域で古くから継承されてきた独自の「伝統農業・農文化」を、ぜひ体感してください。



松浦 敬治氏

# なると金時を食べたブランド豚で6次産業化

有限会社NOUDA（阿波市吉野町）（板野郡上板町）

代表 納田 明豊

○「阿波の金時豚」の飼育・食肉加工・販売を一貫して自社で行う

【shop&officeアグリガーデンURL】 <https://www.kintokibuta.co.jp/>



徳島の季節の移ろいに成長を委ね、  
金時芋と地産米、吉野川の水を糧に。

牧場外観



店舗外観



豚舎



ブランドサツマイモなると金時



加工



堆肥

## ○ 取組内容

- ・ 自社農場で飼育した豚の食肉加工から販売までを自社店舗「shop&officeアグリガーデン」で行うことで、高品質の商品を提供。
- ・ 徳島県ブランドのかんしょ「なると金時」を与えて育てた「阿波の金時豚」として商品登録しブランド化。
- ・ 「みどりの食料システム戦略」を推進するため、糞尿を発酵させ養分を凝縮した高品質な堆肥を製造し、新規就農者を含めた地域の耕種農家4戸に供給。
- ・ 地元の小学校へ、阿波の金時豚の提供や食育授業の実施。

## ○ 取り組みに至った経緯

平成18年に現代表が養豚会社を継承し、平成25年に現社名に変更。経営継承当時は市況での価格が頭打ちとなっていたため、利益率の向上を目指したことがきっかけとなった。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

他県ブランド豚は、高額取引されているが、「美味しいけど高い」等の市場評価のため、需要が伸びにくい状況であった。

- ・ この状況に対し、平成25年に「阿波の金時豚」を商品登録し、ブランド化するとともに、自社農場で飼育した豚の食肉加工から販売までを自社店舗で行うことで、比較的安価に高品質の商品を消費者に提供することを可能とした。
- ・ また、育成した豚の品質を第一と考え、食肉加工技術を学び、常に品質改善に努め、「良き商品と求めやすい値段」を武器に報道関係機関へのPR活動を行い、ブランド品として認知に取り組むことで、固定客が徐々に増加した。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・ 全国優良経営体表彰 販売革新部門 農林水産大臣賞 (R5)
- ・ 第5回とくしまエシカルアワード (R5)

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

畜舎(繁殖舎、育成舎、肥育舎)を増設し、売上げを拡大。新たに堆肥部門と耕種部門を設置し、ブランド堆肥としての販売や、葉物野菜の生産・出荷に取り組む。

### 経営者からのコメント

肉質を落とすような量産を避け、地場産業との連携で地域活性に努めながら、確実に美味しい金時豚を皆さんにお届けしています。



納田 明豊氏

カテゴリー

畜産

加工・流通

6次産業化

その他

## 世界中の食卓に笑顔をお届けする

鎌田醤油株式会社（坂出市本町）

代表取締役社長 鎌田 武雄

○1789年創業、1965年に「だし醤油」を開発。日本食の魅力・伝統的な食文化を諸外国に発信するため、積極的に輸出に取り組む。

URL: <https://corp.kamada.co.jp/>



カテゴリー

輸出・認証

## ○ 取組内容

- ・2001年、北米への輸出を開始。現在は、米国、中国、台湾、ベトナムなど20カ国・地域にだし醤油、低塩だし醤油、にんにくだし醤油などを輸出。米国、オーストラリアに現地法人を設置。
- ・諸外国のニーズに対応するため、ISO9001、HACCP、FDA認証を取得。
- ・米国での通信販売や越境ECを活用し、海外の消費者への直接販売も実施。また、容器は地球環境に配慮した紙パックを採用。

## ○ 取り組みに至った経緯

- ・海外に赴任している顧客からの当社商品を求める声に応じて輸出を検討。2001年、カマダ・カナダを開設し現地での通信販売を開始。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・輸出先国ごとに異なる規制に対応するため、食品安全マネジメントシステムの国際認証（FSSC22000）を令和7年までに取得予定。
- ・容器に採用している紙パックは、賞味期限は十分長いものの、海上輸送で納品までに時間を要するため、製造後速やかに出荷・輸出。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・輸出額：5,400万円（2023年度）
- ・輸出国（地域割合）：米国（53%）、中国（11%）、韓国（10%）
- ・令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰中国四国農政局長賞

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・輸出先国それぞれのニーズに対応した商品開発を推進。
- ・現地での試食販売や催事を展開し、海外におけるカマダ商品の認知度向上を図る。
- ・インドネシアなどイスラム市場への輸出を念頭に置き、令和6年度中にハラール認証を取得。



紙パック商品の製造の様子



米国小売店でのデモ販売の様子

## 経営者からのコメント

世界の食卓で愛される「鎌田のだし醤油」を目指し“古いけれども新しい”の精神で、今後も全社一丸となって新たな挑戦を続けていきます。



鎌田 武雄氏

## 香川県ブランド「オリーブ牛」の輸出拡大

株式会社カワイ（高松市国分寺町）

代表取締役社長 河合 伸一郎

○1926年創業、食肉販売、食肉処理、そうざい・ソース類製造を実施。

○2016年から香川県ブランド牛であるオリーブ牛の輸出に取り組む。

URL: <https://kawai meat.com/>

カテゴリー

輸出・認証

## ○ 取組内容

- ・2016年から米国やシンガポールへ輸出を開始。輸出国の高級料理店などで、高級部位（サーロイン、リブロース、ヒレ）のカットプレゼンテーションや料理メニューの提案等を行うなど小ロットかつニッチな市場向けに高価格帯販売戦略を推進。
- ・輸出に向けきめ細やかな対応が可能となるよう、海外に拠点を置く食肉を扱う商社や専門店と連携し物流を確保。



## ○ 取り組みに至った経緯

- ・2015年、ニューヨークで開催されたSummer Fancy Food Showに讃岐牛・オリーブ牛振興会、行政等とともに参加し、オリーブ牛のカットプレゼンテーションや特徴を活かした料理メニューの提案が好評を得たことを契機に、現地レストランや食肉専門店等との信頼関係を構築し、輸出を軌道に乗せた。



農家との信頼関係による妥協しないおいしさを追求

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・オリーブ牛の認知度を向上させるため、輸出開始以降3年の年月をかけて、オリーブ牛という商品のすばらしさに共感を得るため、ストーリー（オリーブ絞り粕の飼料化・オリーブ牛の堆肥をオリーブ畑に還元等）として根気強く説明。
- ・物流の効率化を図るため、アジア向けと北米向けとでそれぞれ商流を1本化（独自のブランディング）し輸出を進めた。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・輸出額：4,000万円（2022年度）
- ・輸出国（地域割合）：米国（83%）、アジア地域（シンガポール、香港等）（17%）
- ・令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰中国四国農政局長賞

## ○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・更なる輸出拡大のため、讃岐牛・オリーブ牛振興会をはじめ香川県やJA等と連携し、新たな輸出国の確保を目指す。
- ・各国に根付いている調理法を念頭に置き、それに合うオリーブ牛の部位や料理メニューを提案していく。

## 経営者からのコメント

ヘルシーミートライフのもとに、人々が『食』をもっと自由に楽しめる、多様なライフプランをこれからも創り出していけたらと思っております。



河合 伸一郎氏

地域課題を農業で解決！ 農も、福祉も、地域一丸

百姓百品グループ（西予市野村町）

会長 和氣 數男

○地域の農産物を集荷し、松山市内へ配送・販売

○耕作放棄地を借り受け青ネギ栽培、作業を福祉施設へ委託



野村本店（直販所）



栽培中の青ネギ



青ネギ出荷作業をされる、野村福祉園の皆さん

カテゴリー

農地集積

加工・流通

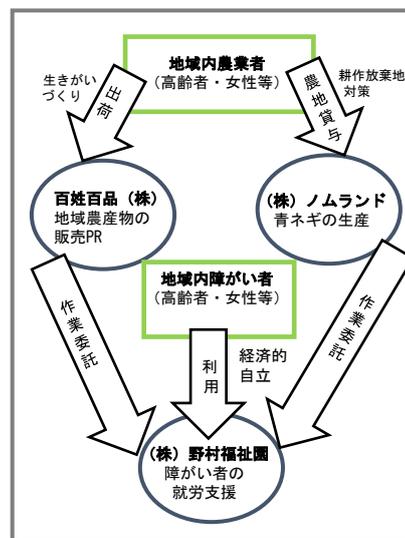
農福連携

地域活性化

○ 取組内容

百姓百品グループは、地元の農家が栽培した農産物等を、直営の農産物販売所や松山市内の産直販売所で販売する「百姓百品（株）」、耕作放棄地等を利用し、青ネギ栽培・販売を行う「（株）ノムランド（旧（株）百姓百品村）」、（株）ノムランドで栽培される青ネギの出荷作業等を請負う、就労継続支援B型作業所である「（株）野村福祉園（レインボーアグリ）」を中心に、「地域の課題を農業で解決する」をミッションにグループ内で連携して事業に取り組んでいる。

地域及びグループ連携イメージ図



○ 取り組みに至った経緯

地域の高齢化、人口減少の中で「なんとか地域に活力を」と1998年に生産者の組合をつくり、直販所を始めた（後の百姓百品）。また、地域から耕作放棄地をどうにかしてほしいとの相談があり、2008年に「百姓百品村」を設立。面積拡大を図るため人材確保が重要となり、農福連携に着目し、2013年に「野村福祉園」を設立した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

松山市内で直販をはじめた当初は、生産計画を立てずに思い付きでスタートしたこともあり苦労もあったが、スーパーのインショップとなってからは、軌道に乗り始めた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和5年度農林水産祭むらづくり部門 天皇杯

○ 今後の展望（将来に向けて）

青ネギ栽培は、耕作放棄地の解消から始まった事業。これからも地域を守っていくためにも、より“強く”なっていくことが重要だ。

人口減少・高齢化が進み、担い手不足が大きな問題となる中、野村福祉園の存在価値は大きい。これからも地域の大きな戦力として活躍してほしい。

事業者からのコメント

“いなか”にとって“農業”は大きな産業。

そんな産業を支える存在として、これからも邁進します。



和氣 數男 会長

## 農福連携の活動に高校生が奮闘中

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（伊予市下吾川）

教諭 藤川 幸恵

○生活科学科は農業科目と家庭科目を中心に実践的に学習し、地域貢献を目指す。



カテゴリ

農福連携

地域活性化

## ○ 取組内容

地方自治体や地元企業等と共に地域振興を図りながら、農福連携を通して、共生社会の実現に取り組んでいる。

広島県の特別支援学校と連携した夏野菜を使ったお菓子の考案、福祉施設や農福連携を実施する企業と連携し、障害者や高齢者と協同した農作業、カフェ運営、商品開発を実施。

廃棄されている未利用魚を使った料理の考案等、地域食材をPRすることで地域の活性化につなげている。

## ○ 取組に至った経緯

伊予市の高齢化率は34%を超えており、全国平均(約29%)を大きく上回っている。また、伊予市は令和3年度から8年度までの6年間、伊予市第3次障がい者計画を策定し、「共生社会の実現」を目指している。同校は、その考えに共感し、伊予市唯一の高等学校として、それらの問題解決を目指し活動を開始した。

誰もが活躍できる地域づくりを目指し、「#伊予農福連携プロジェクト」を生徒自ら立ち上げ、農福連携に取り組む。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

「えひめ地域づくりアワード・ユース2023」で最優秀賞を受賞したことにより、地元の伊予銀行が仲介役となって、多くの企業と連携をすることとなった。

取組は多岐にわたるが、連携先と連絡を密に取ることで、商品開発等の取組をスムーズに行うことができている。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・えひめ地域づくりアワード・ユース2023 最優秀賞
- ・ノウフク・アワード2023 チャレンジ賞
- ・令和6年度愛媛県学校農業クラブ連盟第1回各種発表県大会 最優秀賞
- ・第75回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

同校は、農福連携の活動を通じて、誰もが活躍できる地域づくりを目指している。「農福連携等応援コンソーシアム」へ入会し、専門家や企業と交流しており、農福連携の6次産業化に向け、今後の活動を計画している。



上：ノウフクJASきくらげ選別作業  
下：ノウフクJASきくらげのコロッケ

## 担当教諭からのコメント

今年度は「#伊予農福連携challenged」というテーマで農福連携を通じた共生社会の実現を目指しています。



藤川 幸恵氏

## 有機グアバでノウフク・産官学連携・SDGs・6次産業

一般社団法人エンジェルガーデン南国（南国市）

代表理事 西川一司

○自社農園で育てたグアバで農産物加工品等を製造・販売

URL: <https://www.nishigawa-nouen.com/>

カテゴリー

担い手

園芸

6次産業化

地域活性化

グアバの葉からできた  
有機土佐国グアバ茶高知商業高校生と共同開発したラオス学校建設活動  
への寄付金付きのグルテンフリークッキー

グアバ果実の完熟フルーツソース

## ○ 取組内容

耕作放棄地を転用した有機JAS認証の自家農園にて農薬や肥料、除草剤を一切使わず究極のオーガニックといわれる自然農法で、高知で半世紀前から愛されてきた『グアバ果樹』を栽培。農福&産官学連携で美味しく機能性のあるグアバ製品を自社工場で加工、全国に向け卸販売も行う。

## ○ 取り組みに至った経緯

高血圧症を克服し減量にも成功したある病院の看護師長さんを通じ出会ったグアバ果樹。高知大学土佐FBC（食品産業を担うリーダーを育成・創出する教育プログラム）にて機能性の高さを検証、学会発表も行った。特別支援学校の教員だった代表が一般の企業で働きづらい子供たちのために就労支援B型事業所を開所、栽培から加工、販売まで携わる。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

初めての農業だったので、どこから手を付けていいのか分からなかったが、地元のグアバ農家さんを紹介してもらったり、無農薬リンゴを青森で栽培している専門家の方などをお招きし、無農薬無肥料で除草剤も一切使用しない自然栽培を習った。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・平成27年度高知県地場産業大賞 奨励賞
- ・サステナブルコスメアワード2019 審査員賞
- ・ソーシャルプロダクツ・アワード2021ソーシャルプロダクツ賞
- ・サステナアワード2021伝えたい日本の“サステナブル”AgVenture Lab賞
- ・高知を贈ろうギフトコンクール2023 15選
- ・第10回「ディスカバー農村漁村の宝」中国四国農政局奨励賞(R5)

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

- ・利用者の月額工賃の向上  
(商品の売上利益はすべて利用者の工賃となります)  
2016年5月開所時→16,000円 2024年現在→37,500~87,500円
- ・障害者受け入れ人数を増やす  
2016年5月開所時→3名 2024年現在→30名
- ・雇用創出:2016年5月開所時→3名 2024年現在→10名
- ・農業と福祉の連携 ・有機自然栽培の普及 ・移住者促進
- ・新規就農者増加へ貢献 ・エビデンス(機能性表示など)
- ・産官学連携の商品開発(官は高知県工業技術センター等)
- ・海外への高知県産グアバの輸出



地元高校生と商品の共同開発に取り組



JICA研修の受け入れ

## 代表者からのコメント

自然の恵みに感謝し、地球環境に優しい農法で人々の健康と美容に貢献するとともに、働くことの幸せを感じ、自立できる環境をこれからも目指していきます。



西川 一司氏

# 村をブランド化し魅力を全国に発信した馬路村農協

馬路村農業協同組合（安芸郡馬路村）

代表理事組合長 北岡 雄一

○ゆず加工品・化粧品の開発・製造・販売

URL: <https://www.yuzu.or.jp/>



ゆずドリンク等を製造している「ゆずの森加工場」



ゆず加工品の商品

## ○ 取組内容

青果出荷が困難なゆずを有効活用するためドリンク・ポン酢しょう油等を製造し、販売。馬路村をまるごと売り込む戦略でブランド化し、全国のファンづくりに取り組んでいる。

また、ゆずの果汁から皮、種まで加工し、残滓は村内で堆肥化するなど村独自の有機循環農法も行っている。

## ○ 取り組みに至った経緯

村の主体産業であった林業の衰退を受け、新たな産業づくりとしてゆずに注目し、青果販売ではなく加工品に特化した販売を行うことで付加価値を付け、組合員に還元する形を実現した。

## ○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

大手メーカーとの差別化を図る一方で販売力が低く、認知もされていなかった時代には物産展に出向き対面販売より消費者と直接結びつくことで販路を少しずつ拡大していった。

また、ゆず加工品の販路が拡大していくにつれ、原料のゆず確保のため組合員とともに園地の拡大を行い生産量の増加を図った。

## ○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第52回日本農業賞「食の架け橋部門」大賞 (R5)
- ・令和5年度農林水産祭多角化経営部門 天皇杯

## ○ 今後の展望(将来に向けて)

過疎地の中で産業を継続し、解決できない課題と共存していく次の地域モデルの創生に取り組んでいく。



「馬路村」を売り出す販促ポスター

### 組合長からのコメント

小さな農協ではありますが応援してくださる皆様のおかげで独自の取組が継続できました。今後も村と組合の維持発展に務めます。



北岡 雄一氏

カテゴリー

担い手

6次産業化

地域活性化

その他

【お問合せ先】

中国四国農政局企画調整室

〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1

TEL 086-224-4511（代表）

本資料は中国四国農政局ホームページに掲載しております。

<https://www.maff.go.jp/chushi/assess/wpaper/index.html#meguji>